科目ナンバリング	U-LAS06 20030 LJ43						
授業科目名<英訳>	現代経済社会論II Contemporary Socio-Economic Theory II			担当者所属職名・氏名	非常勤講師 黒宮　一太		
群	人文・社会科学科目群	分野(分類)	法・政治・経済(各論)		使用言語	日本語	
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）
開講年度・開講期	2026・後期	曜時限	金2	配当学年	全回生	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

本講義では、現代社会の政治経済を規定している根本条件について考えるために、それらがいかなる思想史的経緯からもたらされたのかを概観する。なかでも、前期開講の「現代経済社会論I」にひきつづき、冷戦終結以降の世界を席巻し、また、昨今行き詰まりが指摘されるようになったグローバリズム（および新自由主義）の問題が何であるかという問題意識を根底に据えながら、本講義では、グローバル資本主義の問題がもたらす今日の経済社会の閉塞がいかなるものであり、また、それがいかにして生じてきたのかを、わたしたちの社会を支配している「経済成長」という観念に言及しながら、「経済についての見方」あるいは「社会的価値」の次元で考察していく。あわせて、急速な近代化への抵抗として生みだされ、また「反近代主義」とも目されてきたナショナリズムの今日的な意味についても考えていくことにする。

[到達目標]

１ グローバル資本主義の問題を「価値」の次元から説明することができる。
２ わたしたちが当然とみなしている「経済成長の追求」がいかなる問題を生みだしているか、講義で解説した知識を用いて説明することができる。
３ 今日の経済社会の重要な論点が何であるかを講義で解説した知識を用いて自ら見いだし、それについて考察することができる。

[授業計画と内容]

本講義では、以下の各論点につき１～３回の講義をおこなう予定である。ただし、ときどきの「状況」についての総合的な解釈を試みながら講義を展開していく予定であるため、また、受講者の関心や理解度も考慮しながら講義を進めていく予定であるため、各論点をとりあげる順序や回数は変更する場合もある（大きな変更がある場合には、最初の講義において説明する）。

1　「経済成長主義」の限界？
2　「経済成長主義」への囚われ？
3　グローバル資本主義の問題
4　戦後世界の「進歩」を促したもの
5　経済成長はなぜゆきづまるのか？
6　経済成長とイノベーション
7　経済成長と「価値」の問題
8　善き社会/善き生をどのように思考・志向するか: 経済社会の「価値」問題

以上に加え、期末試験後にフィードバックを１回実施する。よって、授業回数はフィードバックを含め15回とする。

現代経済社会論II(2)へ続く↓↓↓

現代経済社会論II(2)

[履修要件]

この授業だけを受講することも可能だが、前期の「現代経済社会論Ｉ」を履修していることが望ましい。

[成績評価の方法・観点]

学期末におこなう定期試験（80%）、および授業時間内に実施する小課題（小レポート、コメントシートなど、20%）により評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

とくに教科書は指定しないので、講義内で適宜紹介する文献を読んでみることをすすめる。

[その他（オフィスアワー等）]

受講するにあたって特別な予備知識は必要としないが、現代経済社会の諸問題について、政治・経済思想のみならず、幅広い観点から、歴史的かつ哲学的に思考することに関心を寄せる人の履修が望ましい。

[主要授業科目（学部・学科名）]